

種の淡水産植物に含有する金属元素. 近畿大学
環境科学研究所研究報告 (10):31-34.

———・山本博昭・宮沢三雄, 1984. 同 (第3報) フ
タル酸エステルの除去. 同上 (12):45-49.

———・———・———, 1985. 同 (第4報) 金
属元素の除去. 同上 (13):25-30.

———・栗山博之, 1985. 同 (第5報) 農薬類の除去.
同上 (13):31-35.

———・———・西井基夫, 1986. 同 (第6報) 金
属元素の除去. 同上 (14):27-32.

———・———・———・宮沢三雄, 1987. 淡水
産植物による河川、湖沼の汚濁物質の除去に関
する基礎的研究 (第7報) 浮漂性水生植物の利
用. 同上 (15):51-54.

———・———・桜井茂樹・———, 1988. 同
(第8報) 金属類の取り込み. 同上 (16):35-
49.

喜納政修, 1988. 沖縄におけるホテイアオイの生長. 琉
球大学工学部紀要 (36):23-28.

久末忠司・黄之瀬健志・川本和昭・辻田啓志, 1987. 琵琶
湖内湖の価値 一内湖浄化力の調査報告一.
技術と人間 16 (11):50-60. [内湖の水草にふ
れる]

嶋田典司・矢島 聡・渡辺幸雄, 1988. オオサンショウ
モによる水質浄化に関する研究 (1) オオサ
ンショウモによるN、P吸収の基礎的実験. 千
葉大学園芸学部学術報告 (41):15-21.

橘ヒサ子・佐藤 謙, 1985. 大雪山系原始ヶ原の湿原
植生 —北海道高地湿原の研究 (VII). 北海道
教育大雪山自然教育研究施設研究報告 (20):
1-20.

———・佐藤秀之, 1986. 暑寒別岳雨竜沼湿原の植生.
同上 (21):19-46.

田畑貞寿・白子由起子・嶋田典司・渡辺幸雄, 1988. 湖
沼域における水辺緑地の造成に関する基礎的研
究. 千葉大学園芸学部学術報告 (41):61-66.

南川 幸・広 正義・石田典子, 1987. わが国の代表的
なニュータウン建設をはじめ、大都市圏におけ
る都市化地域の水生、水辺植生の現状. 名古屋
市立保育短期大学研究紀要 26:4-77.

(次号につづく)

篠 遠 先 生 を 悼 む

原 田 市 太 郎

本会会員、望天篠遠喜人博士帰天(1989、9月16日)。
94才。信州諏訪の出自。東大・理・植、1920(大9)年
卒業。植物遺伝学・細胞学の研究を基盤として、広く
“科学活動”に活躍。

性染色体を調べられたとき、クロモに関心をもたれた。
「方々のクロモを集めて、もう一度チェックしたい。東京
周辺に2倍(体)があった。クロモは染色体が大きい、
数も多くない、性染色体がまだはっきりしていない、栽培
も楽である…」というお便りを以前もらいました。

本会発足の第1回大会に出席され、“お祝いの芳志”
をいただきました。

私は第13番目あたりの弟子。“単子葉植物の核型調査”
を先生は一つのテーマとされて居られ、私は“ヘロビエー
(沼生群)の核型”という卒論題目をもらいました。これ
がきっかけで、私は水草にかかわり合ったわけです。

先生は穏和で包容力の広いお人柄。研究・教育・啓蒙
に八面六臂のご活躍でした。静かな信仰のお方でした。
亡くなられる寸前に、40年間に亘って書き重ねられた
「私訳聖書」ができて上がり、ご満足のおんことであつた
らうと拝推しております。 以上。

投稿規定を定めるにあたって

すでにお気付きかと思いますが、今回より本誌の投稿
規定を定めました(20頁)。今後は、この規定にしたがっ
て、投稿いただくようお願いします。

水草研究会会報は、次号で40号となります。この間、
多くの方から御寄稿をいただき、水草に関するさまざま
な知見や情報を蓄積してまいりました。そして水辺の自
然の現状への危機感と関心が高まる中で、この会報の役
割も、ますます高まってきています。このような状況に
対し当会報の一層の充実をはかるためには、いくつかの
課題があります。ひとつは、専門的な報文の寄稿に対応
できる体裁を整えることです。今回の投稿規定に英文タ
イトルや英文アブストラクトのことを加えたのは、その
ためです。しかし、これは、当会誌を研究報文中心の専
門誌にするということを意図したものではありません。
研究会報として会員の研究発表の場を提供するとともに、
水草への親しみと理解を増し、かつまた会員相互の親睦